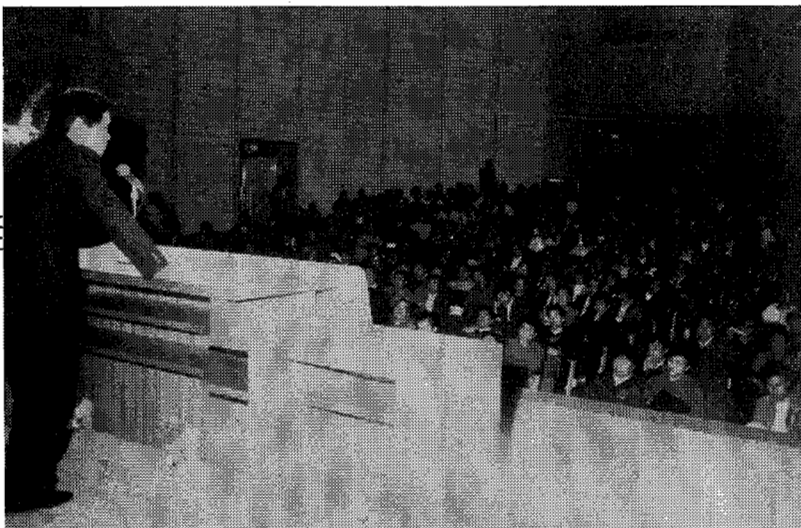


一切の制限といはらい、反動 中曾根=当局革マル打倒へつき進もう



勝利への確信も固く、鮮明な決意を表明する中野委員長(1% 教有館大ホル)

日刊 動労千葉

84.11.16

No. 794

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)〇四七二(22)七二〇七

60日ダイ改「阻止」突破口に、全国から総決起を！ 日集 中野委員長の決意表明

「11・10国鉄労働者集会」は一〇五〇名の結集をもって、三里塚
―国鉄を基軸に反動中曾根内閣打倒の闘いに総決起する意志一致を
かちとった。本号では、動労千葉を代表した中野委員長の決意表
明(要旨)を紹介する。

敵の攻撃を 見据えて闘おう

10・10をもって今日、
日本階級闘争の最先端に
位置する三里塚、国鉄戦
線は決戦局面に突入した。
三里塚は先制的に二期
決戦に突入した。

国鉄は当局側が首切り「三本柱」の団交打ち切
り通告を一方的に行い、動労千葉、国労、全動労
に対して「雇用安定協約」の破棄通告を行ったこ
とをもって、決戦局面に突入したことを確認しな
ければならない。

当局は「三本柱」について、一つも成果があが
っていないにもかかわらず、「一時帰休」が十三
名、「出向」が〇とかプレスアップしている。こ
こに自民党・中曾根体制の国鉄労働運動解体にむ
けた異常な執念をみる事ができる。

再建監理委員会は「分割・民営化」の方針を出
した。運輸省も確認した。当局のごときは十八
二〇万人にするとまでいっている。そんなことで
国鉄が再建できるなどと思っている人は誰もいない。
どんな方針をもってしても、二〇兆円の長期債
務をはじめ、様々な問題は解決しない。

敵の狙いは、まさしく国鉄労働運動解体の一点
にあることについて見据えなければならぬ。そ
の上で、当局の土俵の上であれこれいうなという
ことを、全国の仲間へ訴えねばならない。いまや
国鉄労働運動は解体されるのか、国鉄労働者が中
曾根体制を打倒するのか、の選択が問われている。

動労「本部」革マルの裏切りを許すな

動労「本部」革マルは「三本柱をのんで雇用を
確保する」といった。しかし、年々ふくれ上る
「過員」攻撃に屈服していながら、「協約で雇用
確保」できるといっているのはベテンもはなはだしい。
だから、動労千葉はキッパリと屈服を拒否した。
すると当局は「雇用安定協約を破棄する」といつて
きた。国労の武藤委員長が「あれは裏切りだ」とい

いだったが、まさにその通りだ。

十万人の首が切られた一九四九年の定員法、レ
ッドバージ攻撃を思いおこせばわかる通り、国労
が闘う力をなくしてしまえばあのようになくなってし
まう。だが、労働組合が闘う限りそう簡単にはで
きない。動労「本部」は「骨身を削って」首切り
「三本柱」をのみ、当局と手を結んだ。

動労「本部」と当局が結んだ「交渉記録抜すい」
の中に「……実績測定を勘案し、本協定の締結組合
である貴組合単位でその効果を測る」と明記され
ている。はっきりいえばどういふことか。それは
労働組合が率先して「一時帰休しろ」「出向しろ」
ということであり、そのことがやられない場合は
「雇用安定協約を締結している基盤がなくなる」
から破棄するということだ。当局はそうはつきり
と知っている。

敵の攻撃はそんなに甘くはない。
革マルの領袖・松崎は、国労に対して「今スト
ライキをやれば敵の挑発にのるだけだ」といつて
いるが、敵の攻撃は常に労働者の団結を阻害し、
粉碎するためにつけてくるわけだから挑発的要素
がないはずはない。それを労働者の実力でどう粉
砕するかが問われる時機が到来していることを確
認しなければならぬ。

第二の八一・三を準備しよう

この攻撃のうちかつ道は、

第一に、三里塚・国鉄を基軸に反動中曾根体制を
打倒するという基本的態度を全体が確認すること。

第二に、裏切り者「動労「本部」革マル」を打倒
一掃することに決戦の焦点がかかっており、国労
の仲間は全国全職場で動労組合員に「動労を脱退
して国労に来なさい」といふべきだ。

第三に、本日結集された国鉄労働者とその傘下
にいる多くの仲間が、職場生産点から創意工夫を
こらした様々を闘いを、一切の制限をとりはらつ
て国鉄当局、中曾根打倒へ向けて決起することだ。
第二の八一・三闘争に決起する準備をしなければ
ならない。以上をもって動労千葉の決意とする。